

# みやぎ地域復興支援事業 実施事例紹介

平成25年9月

震災復興・企画部地域復興支援課  
復興支援第二班

# 目次

1.特定非営利活動法人 ウィメンズアイ

\* 広域生活圏に基づくテーマ型コミュニティ育成

2.特定非営利活動法人 地球のステージ

\* 津波被害復興祈念資料館「閑上の記憶」運営

3.一般社団法人 東松島復興協議会

\* 被災者支援団体を支える仕組みづくり

4.公益社団法人 助けあいジャパン

\* 情報レンジャー@宮城

5.一般社団法人 WATALIS

\* 地域資源を活用した商品企画・販売・雇用促進事業

6.特定非営利活動法人 オン・ザ・ロード

\* 石巻元気商店

7.ボランティア団体

\* 南三陸きりこプロジェクト

8.任意団体 おがつスターズ

\* やります！おがつスターズ

# 広域生活圏に基づくテーマ型コミュニティ育成 ～シングルマザーが集う会、福祉仮設生活者の体操の会など～

社会的  
事業支援教育・  
子育て人材育成・  
自立支援

事業主体： 特定非営利活動法人 **ウイメンズアイ**  
 支援・連携： とめ女性支援センター、LaLaLaクラブ、  
 有限会社コンテナおおあみ

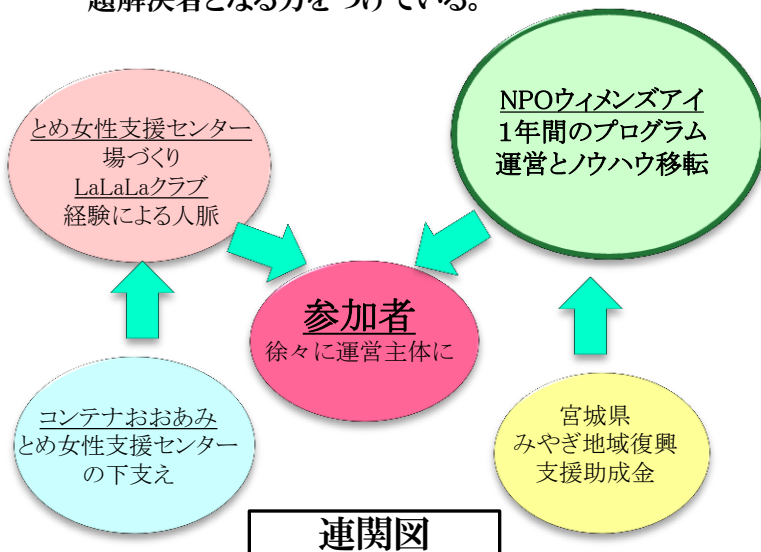
## 復興支援の概要

子育てや介護で外出がままならない女性、社会との接点を失った状態にいる高齢者や障害を持つ人の孤立が深まっている。震災から2年以上が経過しても将来の見えないストレスから配偶者間暴力(DV)や児童虐待など家庭内問題の深刻化も懸念されている。問題を抱えながら社会と断絶した状態にある女性たちにリーチし、横のつながりを作ることが喫緊の課題である。

テーマ型コミュニティとは、興味関心等が同じ人たちのつながりやサークルなどを意味する。同じ課題を抱える人たちのつながりを、楽しさを共有するサークルから始めることで仲間が広がり、適切な育成プログラムによって、お楽しみサークルから、みずから課題解決に取り組むグループに発展する。

事業の5つの特徴：①グループ化(すでに孤立した状態にある女性たちにリーチし自助グループ作りを推進)、②リーダー支援(課題の渦中にいながらも自らの力でたちあがろうとしているリーダー予備軍が活躍できるようサポート)、③課題解決型(地域や住宅形態など分断や孤立の原因となる諸事情に配慮した或いは根本的に解決する交流事業を創り出す)、④当事者主体(支援対象者として災害弱者を集めるのではなく、各人が課題解決者として取り組む主体になる)、⑤先駆性(震災後に内陸と沿岸を結ぶ広域生活圏が強化されており、その新たな生活圏にもとづくテーマ型コミュニティ育成)

シングルマザーの集いは、シングルマザーでいることの暮らしづらさという課題を前提に、楽しさや悩みの共有から仲間づくりを丁寧に行い、課題共有、言語化、フィードバックの繰り返しにより、みずからが課題解決者となる力をつけている。



2013.7.21 登米&南三陸町シングルマザーズ女子会  
「神割崎でBBQ」の様子、南三陸町神割崎キャンプ場にて開催

# 津波被害復興祈念資料館 「閑上の記憶」運営 ～新しい出会いと雇用のために～

社会的  
事業支援人材育成・  
自立支援事業主体： 特定非営利活動法人 **地球のステージ**

## 復興支援の概要

心のケアで大切なことは「被災時の記憶をきちんと整理し、語り、向き合って乗り越えていく」ことである。そのための「津波に関する情報や資料、人々の生き抜いた語り」を残す必要があり、「津波資料館」を運営し、「津波の語り部」を育成し、心のケアに役立てる。同時に全国・全世界から訪れる訪問客に、正確な情報を伝え、防災意識の高揚を訴える。

具体的には、

- ①津波記念資料館の拡張・充実(AV資料室の増設、語り部の会を2倍増)
- ②「津波の語り部」の発掘(自分なりにきちんと語れる人と、いつも語れる場の確保)
- ③「閑上の案内人」の育成(現地を案内できる人、修学旅行の受入拡大も図る)
- ④「記憶の学芸員」の育成(遺構を調べ、記録し、保存し、見られる形にする人)
- ⑤訪れた人々へ記念品の提供(記録写真や地元主婦が作ったアクリルたわしなどを実費販売)
- ⑥各種イベントの開催(記念式典ミニコンサート、語り部交流会など)を行う。

目指すのは、被災地の記憶が整理され、物語が紡ぎ出され、心のケアが実践できること。また、被災地で起きたことを正確に伝承する施設と、後世に語り継げる人材の育成、そして、全国からの来訪者が増えて、地元産品が売れて、地域の経済活動も活性化することである。

## 関連図

全世界からの訪問客

「閑上の記憶」  
資料展示・映像上映  
語り部の会  
各種イベント

心のケア

被災者

地球のステージ



訪れた山形の小学生に被災状況の説明  
2013. 8. 8 津波記念資料館「閑上の記憶」にて

# 被災者支援団体を支える仕組みづくり

## ～資金支援と調達システムづくりで支援活動の維持・継続を～

社会的  
事業支援

事業主体：一般社団法人 **東松島復興協議会**  
 支援・連携：任意団体 **東松島復興協議会(連絡調整機関)**

### 復興支援の概要

震災から2年が経過し、被災地が抱える課題はコミュニティ再生などのソフト面に移行しており、行政だけでは取り組みが困難な部分を民間の支援団体が担っている。しかし活動資金の枯渇により撤退を余儀なくされる団体や、資金獲得のノウハウや運営スタッフが少なく、経済的に苦しい状態で活動している団体も多い。

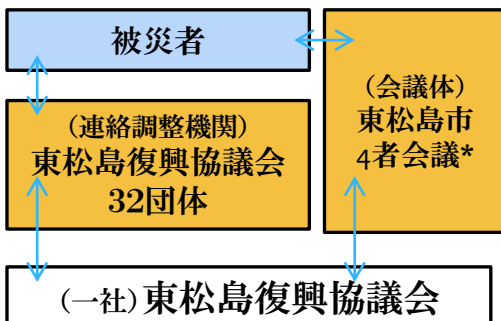
この状況に対処するために、①資金支援審査会(年2回)を経て資金提供を行う。②当該団体への訪問・活動支援を行う。③資金調達の研修会を開催する。④資金調達システムの調査研究及び提案を行う。

支援団体への、直接的な資金支援、資金調達の仕組みづくり、ノウハウ提供や活動支援によって、被災者支援活動が継続的に行われることを目指す。

東松島復興支援助成金 助成団体一覧(第1回目)

No	団体名	事業名	助成決定金額
1	社会福祉法人 中野区社会福祉協議会 中野ボランティアセンター	なかのカフェ	¥300,000
2	まちづくりNPO げんき宮城研究所	映画上映会の開催等による 広域連携支援体制構築事業	¥342,000
3	教育を考える親たちの会	被災者就活・交流支援プロジェクト	¥400,000
4	NPO法人ベビースマイル石巻	ベビースマイルサポーター育成事業	¥424,000
5	一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク	奥松島観光産業支援プロジェクト	¥455,000
6	復興支援団体 プラスネオ	被災地の生活再建及び地元コミュニティ強化支援事業	¥440,000
7	宮戸島グループ	(仮称)宮戸島産おみやげ販促プロジェクト	¥420,000
8	くれ災害ボランティアセンター	仮設住宅住民同士による見守りを促すための支援事業	¥450,000
			¥3,231,000

### 連携図



\*東松島市、東松島復興協議会  
 東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会  
 国際協力機構(JICA)

2013. 7月 第1回東松島復興支援助成金  
 8つの団体に助成を決定 総額は3.2百万円

# 情報レンジャー@宮城

～被災地の復興状況を動画・パノラマ写真・ブログで発信～

地域活性・  
まちづくり

IT/情報化

事業主体：公益社団法人 助けあいジャパン

## 復興支援の概要

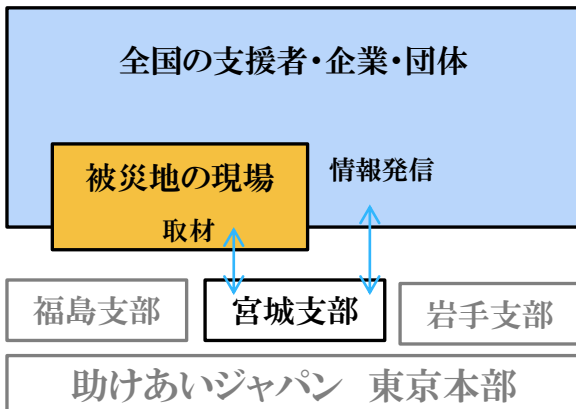
県内外の避難者に対し、被災地の「現在(いま)」を取材し、被災地での困り事・課題を正しく発信することで、更なる復興支援活動を喚起する目的で活動を開始した。

被災地の復興状況など、現地で何が起きているのかを地元目線で取材し、ウェブサイトを通じて動画・パノラマ写真・ブログで発信、ソーシャルメディアの活用でより多くの人に情報を届ける。また、緊急時の情報リテラシー確保のためにも被災地の人材を雇用・育成する。

目指すのは、

- ①現地に埋もれた情報を自ら発掘し、現地目線で多くの方に発信し続ける
- ②被災地域毎に大きく違うニーズの把握と可視化
- ③企業・団体による支援の成功事例紹介や、企業同士のコラボレーション促進
- ④現場の課題・ニーズを伝えることで、支援者側の支援策検討に貢献  
関心の低下による風化を防止し、支援継続を図るものである。

## 関連図



2013. 7. 26みやぎ生協にて  
「食のみやぎ復興ネットワーク」を取材

# 地域資源を活用した商品企画・販売・雇用促進事業 ～「みやぎらしい女性の就労モデル」の構築を目指して～

社会的  
事業支援教育・  
子育て人材育成・  
自立支援

事業主体：一般社団法人 WATALIS

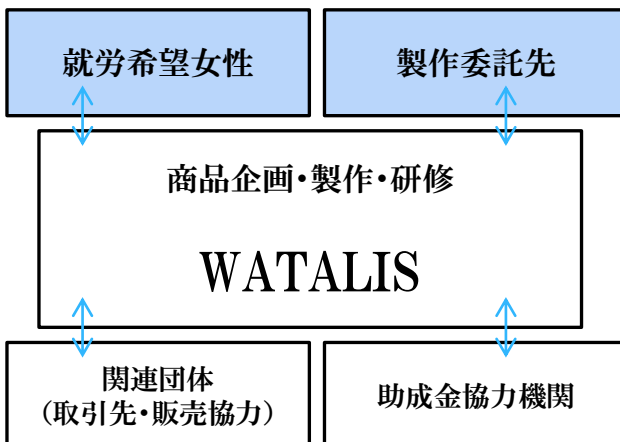
## 復興支援の概要

FUGURO(着物地の袋)など亘理の伝統・文化を象徴するアイテムの商品化を行い、町内で縫製作業を中心に約30名の雇用を創出した。しかし被災地域ではライフスタイルに応じた就労、個々人の技術を活かした就労、自宅での仕事などのニーズに対し、応えられる事業は少ない。女性が各々の技術や就労可能時間に応じた働き方を選択できる「みやぎらしい女性の就労モデル」を作ること、地域住民が自ら自立に向けて地域復興を目指す推進力になると考える。

具体的には、地域資源を活用した商品企画(市場調査やデザイン企画)、事業収益による賃金及び購買で地域還元(販促としてニュースレター等の情報発信、HP作成、Web販売)、女性就労促進のための研修会(縫製技術45回/年、事務能力12回/年)などを行っていく。

女性達が地域の実情とライフスタイルに応じた「自分らしい」就労の機会を獲得し、その潜在的な力が収入に結びつくことで、経済的自立が促され、個々の自信や誇り、生きがいに繋がる。また、子育てや介護に携わる女性達の精神的安定は、家庭内のみならず、地域の活性化や復興にも良い影響を及ぼすと考えている。

## 関連図



着物地をリメイクした  
ヘアアクセサリや  
マグネットなども商品化



2013. 8. 19 定例会の様子  
(技術研修、及び情報共有の会議)

# 石巻元気商店

## ～オンラインショップで販路拡大～

地域活性・  
まちづくり

IT/情報化

事業主体： 特定非営利活動法人 **オン・ザ・ロード**

### 復興支援の概要

震災後、商店を再開するには、金銭的、環境的、精神的にもハードルが高く、多くの商店が閉店し、まち全体の活気も低下、地域経済にも悪影響が出ていた。元々東北ならではの魅力的な商品があるにもかかわらず、それらを情報発信できないことも課題であった。

この課題に対処するために、Yahoo復興デパートメントにオンラインショップ「石巻元気商店」をオープン、地元商店が扱う石巻周辺の美味しいもの、良いものを販売している。オンラインショップ運営ノウハウのない商店、生産者に代わって、企画、サイト上のCM作成、商品の紹介、受発注などを行い、また、スタッフとして地元の若者を雇用し、今後地元主体の体制に移行する事も考慮している。

オンラインショップで日本中に特産品を紹介・販売することは、消費者にとっても気軽に復興支援に関われる機会を提供することになる。全国から暖かい声やリピート注文も頂いており、更に、現地を訪問した人からは現地で購入したいという要望もあり、今後は実店舗の建設も計画している。昨年末からは収支の黒字化も達成しており、「新たな地域活性化モデル」として確立することを目指す。

### 関連図

全国の消費者

オンラインショップ  
Yahoo! JAPAN 復興デパートメント石巻元気商店  
(NPO オン・ザ・ロードが運営)

NPO オン・ザ・ロード

石巻圏内の  
商店・漁師など生産者Yahoo! JAPAN 復興デパートメント  
石巻元気商店のホームページ



# 南三陸 福幸きりこプロジェクト

～伝承「きりこ」で、この町に生きる誇りと伝えるべき記憶を共有～

地域活性・  
まちづくり

事業主体： ボランティア団体 ENVISI  
支援・連携： 有限会社 ダ・ハ プランニング・ワーク

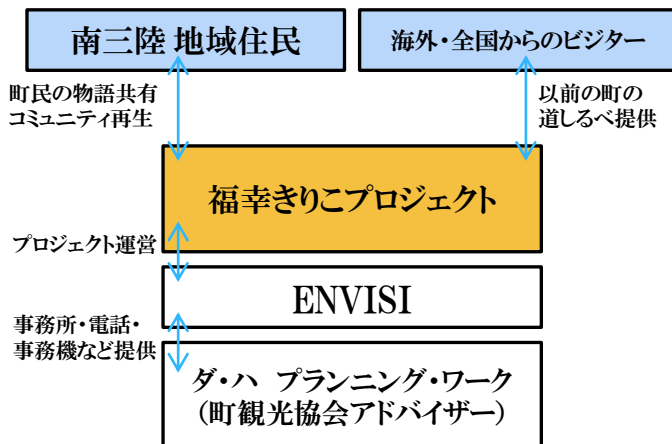
## 復興支援の概要

自らの家、仕事場など大切な場所を、ほとんどの町民が一度に失った傷跡は大きく、やがて人々は被災前の生活や暮らしてきた場所に目を向けなくなった。このままでは、失ってはいけない記憶まで失ってしまうという危機感から、この苦境をもがきながらもたくましく生きる人達の姿、先人達の足跡を共有する機会を提供すべく、「きりこ」の制作・展示を開始した。

今年度は、①町民の物語(思い出、かつての生活、未来に伝えること、復興への抱負など)を相互取材し、地域伝統の白い紙の神棚飾り「きりこ」で表現、8・9月に復興商店街で展示する。②流された家々の敷地に設置していた61枚のアルミ製大型きりこをリニューアル、新たな作品も増設し、さらにQRコードとWebの連動で各きりこの詳しい情報を提供する。③8月末のかがり火祭りに向け、「きりこ回り灯籠」を町のみなさんと一緒に制作し、町民同士が苦難に立ち向かう姿を讃え合う場を提供する。

目指すのは、「きりこ」制作の過程で、この町に生きる誇りと伝えるべき記憶を共有し、コミュニティの再生に貢献し、また、ビジターには町の以前の姿をイメージしてもらおう道しるべを提供する。失ったものは大きいですが、残された記憶や人々の生き様を、新たな町の資源として創出する第1歩とすることである。

## 関連図



2013. 8. 23  
仮設商店の軒下に  
「きりこ」を飾り付け



南三陸ポータルセンター前に設置された大型の「きりこ」

# やります！おがつスターズ

～浜のかあちゃんが地元の味で地域再生、雄勝に人を呼び戻す～

地域活性・  
まちづくり

社会的  
事業支援

事業主体：任意団体 **おがつスターズ**  
 支援・連携：石巻市雄勝総合支所  
 雄勝地区震災復興まちづくり協議会

## 復興支援の概要

地域は陸と海が入り組み、海から急峻に山が立ち上がり、平地は少なく浜毎に異なる特徴を持つ。流通に満たない海の幸・山の幸は、これまでは地域のなかで自家消費されてきた。震災後、雄勝の人口は激減、生活は漁業に依存しており、これを支え・活性化しないと離れた人達は戻ってこない。

地域から推薦された16名の「おがつスターズ」がこの課題に取り組む。

- ①各浜ならではの料理を楽しむ、小さな食事処「雄勝キッチン」1号店開店
- ②開店に向けて場所と厨房用品を揃える
- ③オリジナルの商品開発(ほたて・昆布佃煮、ウニ味噌、梅干し、漬け物・・・)
- ④農村とのコラボ
- ⑤親子料理教室や料理の提供など、各種イベントに積極的に参加、情報発信も

震災前はごく普通の主婦だった女性達が立ち上がり、料理でもてなし、めずらしい海産物を市場に提供することで、地域の暮らしや文化、伝統、自然を、楽しみながら支える。その姿をできるだけ情報発信し、一人でも多くの人々が故郷雄勝に戻ってくることを目指す。

## 関連図

観光客・一般マーケット

雄勝キッチン

おがつスターズ(16名)

石巻市  
雄勝総合支所  
(事務局)

雄勝地区震災復興  
まちづくり協議会  
(推進母体)



2013. 7. 18  
缶詰め作りと、パック詰め食品の試作会